

地域コミュニティの 防災力

重川 希志依

連載 第9回

大学生消防団シンポジウムに参加して



重川 希志依

1 消防団 LIVE2011

今年度、総務省消防庁が主催をして、全国5会場で“大学生等の消防団シンポジウム”が開催されました。消防団 LIVE2011と銘打って、よしもとのタレントさんたちの出演もある大掛かりなイベントとなりました。私が勤務する富士常葉大学（静岡県富士市）もその会場となり、2月5日にシンポジウムを実施させていただきました

ました。

このシンポジウムの目的は、団員の減少が続く消防団に、大学や専門学校の学生など、若い人たちにもっと入団してもらうことです。大学生などの消防団活動の事例紹介を行うほか、よしもとのタレントさんを交えたトークやパネルディスカッションを通じて、大学生などに消防団活動への理解を深めてもらうこと、次世代を担う消防団員を確保することが大きな目的でした。

ご承知のとおり、全国の消防団員数は減少の一途をたどり、平成17年にはついに団員数が90万人を切り、現在では約88万人にまで減少してしまいました。一方、女性の消防団員数は増え続けており、10年前の約2倍、今では19,000人に達しています。同様に、大学生などの団員も年々増加し、全団員に占める割合はまだまだ少ないものの、全国で約1,800人の学生団員が活躍

地域コミュニティの 防災力 重川 希志依

しています（図1）。

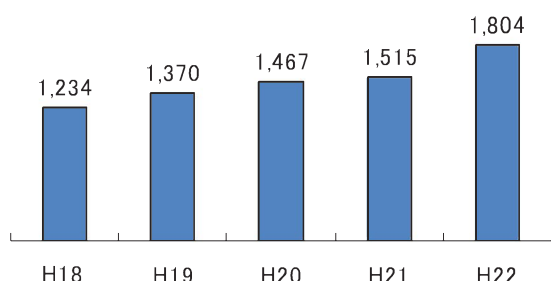


図1 学生団員数の推移（消防庁データ）

また、消防庁作成の資料（表1）を見ると、愛知県蟹江町消防団のように、全団員の2割近くを学生が占めている例もあります。また学生の活動内容も、一般団員と全く変わらない団もあれば、愛媛県松山市のように、大学生防災サポーターとして位置づけている団や大学生の特性を活かした活動を行っている団など、活動の形態もバラエティーに富んでいることが分ります。

ところで、本学の位置する静岡県の大学生消防団員数はどのような状況かといえば、県内ですべて17人しか存在しないということが、この度のシンポジウムで分ったのです。さらに、本

学には環境防災学部があり、消防士などを目指し防災を学ぶ学生が沢山いるはずなのに、消防団に入団している学生は3名しかいないのです。東海地震に備え、静岡県民は防災意識が高いと言っていたことが多のに、何ともお恥ずかしい限りです。

2 大学生団員を増やしていくために

現役学生消防団員や消防団関係者の方たちによるパネルディスカッションを通して、若い力を消防団活動に積極的に取り入れていくために検討しなければならないことも明らかとなりました。

まず、学生の入団について、消防団によってかなり温度差のあることが分りました。大学を卒業すると地元に残ってもらえないので学生の入団はあまり歓迎できないという意見や、住民票を移していない学生は団員にはなれないなど、様々な事情から大学生が希望しても入団しにくい場合もあります。

表1 学生団員が多い消防団の例（消防庁作成）

市町村	消防団員数 (実員数) 【H22.4.1現在速報値】	うち大学生 (専門学生含む) 【H22.4.1現在速報値】	大学生団員の主な活動
愛媛県松山市	2,311	98	大学生防災サポーターとして、災害時、避難所等での後方支援を行う。
神奈川県横須賀市	908	46	一般団員と同じ活動。音大生が音楽退で活動。
東京都世田谷区	623	44	市民、学生向けの救命講習の指導補助。防災訓練の応援。
東京都八王子市	1,478	42	各分団に配属する団員は、一般団員と同じ活動。本部付けの音楽隊、女性隊で活動する学生団員もいる。
愛知県蟹江町	187	35	一般団員と同じ活動。ラッパ隊で活動する学生団員もいる。
京都府木津川市	744	35	一般団員と同じ活動。
奈良県奈良市	995	22	一般団員と同じ活動。女性の学生団員は、カラーガード隊等の広報指導分団で活動。
大阪府豊中市	559	35	一般団員と同じ活動。

地域コミュニティの 防災力 重川 希志依

一方、卒業して別の場所に行っても、そこで消防団に入団してくれれば、全国的に見れば喜ばしいことなんだから、もっと積極的に学生団員を受け入れるべきだという意見もありました。

確かに、一生懸命育てても、4年後には別の場所に出て行ってしまうかもしれない学生は、受け入れる消防団にとってはありがたくない存在と言えるでしょう。しかし、シンポジウムに出演した5人の学生団員は全員、大学を卒業後どこへ行ったとしても、そこで消防団に入団し活動を続けたいと言ってくれました。

また、大学生の団員数が多い消防団から参加してくれた学生は、「うちの団は自分たちのような若い人が参加しやすい環境で、団員同士が

同窓会的な雰囲気でも和気あいあいと楽しく活動させてもらっている」と言っていました。この点についても、賛否の意見の分かれるところだと思います。消防団は人の命を預かる活動をするのだから、学生のクラブ活動とは違う厳しさが必要とされるのは当然のことです。長い時間をかけて培われた消防団の伝統のうち、良いものはきちんと継承し、しかし時代の変化とともに見直すべき点は見直すことが求められているのかもしれませんが。少子高齢化、そしてサラリーマン団員の増加など、解決の方策がない課題を乗り越えていくためには、大学生消防団員や女性消防団員確保がその切り札になると、改めて気づかされたシンポジウムでした。